ネパール・フィールドスクール　演習録４
2009/03/21

Visit to Bhaktapur and Study

Mr. Om Amatya
5 Keywords: バクタプル、ネワール、文化遺産、信仰、歴史

　カトマンドゥの東に位置するバクタプルを訪問した。バクタプルは 15〜18 世紀のマラ王朝時代に栄えた都市である。王朝がおかれ、ラサ、チベットを結ぶ交易路としても重要な位置を占めた。1934 年の地震により被害を受けたが今も多くのネワール文化、ネワール建築を見ることができる。
　マラ王朝以前からもバクタプルの歴史は古く、2000 年前には巨大な宮があった。そのことは 6 世紀に訪れた旅人により記されているという。
　ツーリズムや文化財保護が様々な文化遺産・自然遺産で行われている。この町も例外ではない。町に入る観光客は 750 ルピーを支払い、そのお金は文化財保護のためにあてられる。
　バクタプルの建造物にはネワール独特の様式がみられる。例えばニャタポラ寺院（五重の塔）は屋根と柱が 90 度の傾斜になる特有の構造を持ち、そのことにより地震の影響を受けなかった。またゴールデンゲート内にある水浴場は周囲の山々より水を引いたといわれるが、現在もその技術は解明されていない。ネワール文化における技術や知識の深さを思い知らされる。
　寺院の多くが女神（母なる神）を祭っている。これはマラ王朝時代、母系社会であったことに由来しているといわれている。またこの町全体を守るのも女神である。ダルバードにある寺院のうち 4 か所はインドにある 4 つの巡礼地をシンボライズしたものといわれている。マラの王により建造された。インドまで参拝に行くことが困難な民のために作られたという。当時の人々の信仰の深さと、王が富を持っていたことが分かる。
　ネワールにはヒンドゥー教のみでなく仏教徒もいる。そのためヒンドゥー寺院に並び仏教寺院もみられる。
　バクタプルの歴史、仏教とヒンドゥー教の共存、生活を支える信仰心、そこから生じるネワールの人々の文化や技術に圧倒されるレクチャーであった

（記録：姜明江）